

## 今回のお客様

新しい公民館の管理人さんです、よろしく！

さいとう ふみこ  
齋藤 文子さん 千葉寺在住

“管理人の仕事ですか？こんなに楽しいお仕事で給料もらっているのかしら、と思っているんです”



ながく公民館の管理人を務めた夏山さんが昨年、公民館を去って、代わりに2人の新しい管理人さんが3日交代で働きはじめました。齋藤さんは水曜と土曜・日曜に、県庁の先、千葉寺からさっそうと自転車で通ってきています。千葉寺からどのくらいかかるのですか？と聞くと、「自転車で30分です。いま、パートのお仕事だって、30分くらいの通勤は当たり前ですから」と、自転車通勤も苦にならないご様子は体力の現れかと。いやいや、体力だけじゃなしに、うかがう話がどれも明るいのはこの方の持ち味でしょう。

齋藤さんはいまの香取市、旧栗源町(くりもとまち)の農家のご出身、「さつまいもは、たね芋を埋めておけば自然と大きくなって、それがいつでも売れましたから楽な農家でした」とサラッと云われますがそうでしょうか。地元の高校を卒業後、伯母さんを頼って「ハイヒールと背広の街」東京中野区に移り、19歳のとき、都立の理容学校に進学したあとさまざまな職業を経験しました。「芸能人にあこがれて大部屋女優もしましたし、『おかみさん修行』のために、香川の金毘羅さんの石段下のホテルでも働きました」。“大部屋”では当時、「おくさまは18歳」で当たった岡崎友紀が主演する「なんたって18歳！」に「プールサイドで遊ぶ人」として画面の隅に出、金毘羅さんのホテルでは、「関西人の現実的過ぎる人柄になじめず」千葉に戻ってきて、小湊のホテルで3年半働き、その後千葉駅地下のペリエなどで働いてきました。「私は、家の中に引っ込んでいた仕事はしたことがないんです」と言う通り、持前の明るさで人と接する仕事をせっせとこなしてきた齋藤さんです。



動くの大好きです

「銭湯のサウナが好き」というので、「どうしてですか？」とうかがうと、「働いたあとの汗が毛穴から噴き出していくのを感じられるから」だそうです。根っからの働くこと大好き人間のようなようですが、花も好きで、ポットの花を買ってきては公民館の玄関脇に植えている姿をご覧になった方も多いと思われる。「花は、稲毛ペリエが火曜日に半額セールをしているので、シャッターの開く前に並んで買うんです」。早く並ばないといい花を選べないから、というそんなところに齋藤さんのこだわりがよく表れています。

松波と町会の印象を聞いてみました。「町はきれいですし、老人会がとても活発だったりして、こんなに公民館が利用されているなんて驚きました。だからでしょうか、人がよくまとまっています。千葉寺では、日常の生活の中で町会が話題にのぼることなんてほとんどありませんでしたから」。「仕事はどうですか？」とうかがうと、「お掃除は大好きですし、町会費の受付けなどの仕事も難しいことはありません。公民館

に来てくれた人にお礼を言うのが私のいちばんの仕事だと思うと、『これで給料もらっているのかしら？』という気になります」。ながく人を相手に仕事をしてきた方らしい回答が返ってきました。

「ここに通うためにも健康に気を付けなくては」という一言が、最後に印象に残りました。元気でながく管理人さん続けていただきたい、そう思ったインタビューでした。